

世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト 2020

多摩大学 経営情報学部 梅澤ゼミ

菅原侑士、高橋亮（3年）、小池翼、竹内啓恭、松本壤弥、山口紗恵子（2年）

① 事業内容

本プロジェクト（以下、PJと省略）は、八王子市社会福祉協議会、八王子市地域包括支援センター旭町（以下、センターと省略）、八王子市民生委員・児童委員協議会第4地区民生委員（以下、民生委員と省略）・協力員、有志、学生が協働して「駅前」という特徴を活かした高齢者サロンの運営を行うものである。八王子駅前にはビルが乱立する商業地域である。ビルオーナーとして独居する高齢者、老々世帯は意外に多く、近年は駅周辺再開発による高層マンションの新築が続き移住された高齢者も増えている。PJは高齢者の活動を活発にすることで健康寿命の一助となることを目的とし、「世代間交流」をキーワードに高齢者の方々が自然体でゆったりと過ごすことができ、世代間交流が出来る「みんなのゆったりサロン」を2016年より継続的に実施してきた。

今年度も2021年3月まで10回の開催を計画していたが、COVID-19の影響でサロンは中止が続いている。また、昨年度当補助金を用いて500部作成した「高齢者サロン運営マニュアル」を八王子市内の大学・高専に届け、11万人の学生たちに各キャンパス周辺の身近なサロンに参画してもらえるようお願いし、世代間交流高齢者サロンの輪を広げることが計画していたが、それも難しい状況となった。そこで今年度は2つの新規事業に取り組んだ。

② 実施報告

1. 新規事業「駅前サロン通信」の発行

(1) 事業内容

サロンの中止が続く中、4月からコロナ禍における健康二次被害が本格的に問題になり始めた。サロンに参加して下さっていた高齢者の方々の状況が心配になり、私たちは皆様との繋がりを保ち続けることを目

的として「駅前サロン通信」を発行することにした。表紙はひと目で季節の移り変わりを感じてもらえるような写真を掲載し、2ページ目はゼミ生たちによるコラム、3ページ目は連携団体の皆様からのページとし原稿をお願いしている。4ページ目はなぞなぞやクイズを掲載。読むだけではなく体や頭を使い楽しんでいただける内容になるよう工夫をしている。



8月には暑中見舞い、1月には年始のご挨拶をお届けするとともに、私たちへの返信用はがきを添え、お返事をいただき交流を図った。

(2) 成果と課題

通信は、連携団体の皆様の協力を得て各ご家庭に配布して頂いている。連携団体の皆様からは「外出自粛が続く中、何をしてもよいかわからず思考停止になっていたが、通信配布の提案を受け目が覚めた。通信の配布は高齢者宅を訪問し様子を伺うよいきっかけになっている。」というお言葉を頂いた。

高齢者の皆様からは、返信頂いたはがきや連携団体の皆様を通じて「駅前サロン通信を通じて学生の日常を知ることができる。」「通信を月に一度の楽しみにしている。」「学生が私たちが気にかけてくれることが何より嬉しい。」「早くサロンでお話しがしたい。」などというお声を頂いている。

編集責任者になると編集計画書を作成しひと月以上前に原稿依頼をするなど先を見据え指示を出さなければならぬ。冊子の作成は全員初めてのことで、季節の行事、コラムの執筆を通じて一般常識を学んでいる。執筆担当を分担することでゼミ全体の協力体制ができゼミがまとまったのも成果である。

2. 新規事業「オンライン駅前サロン」

(1) 事業内容

COVID-19の影響が長引きそうな状況になり、私たちは6月にオンラインによる駅前サロンの企画書、オンラインに慣れていない連携団体の皆様向けの「オンライン利用マニュアル」を作成し提案した。オンライン駅前サロンは、学生は大学から、高齢者はセンターに集まり、2会場をオンラインでつなぎ交流するものである。連携団体側は積極的に提案を受け入れてくれ、社会福祉協議会・センター側はネット環境の準備を進めてくれた。COVID-19の状況が改善したら9月からオンライン駅前サロンを開始する予定だったため、ゼミ側は夏休み中にオンライン駅前サロンの機器を準備し、企画内容を具体的に煮詰めた。結果的に9月からのサロン開催は難しいということになり、9～12月は連携団体の皆様とリハーサルを重ね感想・要望を伺い改善しながら準備を進めて来た。現在は2021年3月の開催に向けて準備をしてはいるが、現状では開催は難しいと予想される。

(2) 成果と課題

オンライン駅前サロンを実施していく中で、カメラへの視線、表情、声のボリューム、活舌や読むスピード、全体のスムーズな運営等々多くの課題がみつき改善していった。オンラインでの交流に重点を置いていたので、サロン会場と大学のタイムラグを考慮し、スムーズに交流できるような話しのやりとりのタイミング、シンキングタイムの取り方などを何度もやり直した。また、予め会場に筆記用具などを届け、参加者が回答を絵や字で表現し、説明してもらう等、双方向で交流が図れるように工夫した。

毎回、リハーサルを録画し、チェックをすることで改善を進めた。リハーサルで連携団体の皆様から出された要望や指摘は次回までに必ず改善していくことで、内容がブラッシュアップされていき、連携団体の皆様にも好評である。プログラムはゼミ生全員で考え実施している。

PJは5年目を迎える。「学生企画事業補助金」中間報告会では「コロナ禍にありながら、目的を変えずに方法を工夫し発展させている。」と高い評価をいただいた。10月には大学コンソーシアム八王子「八王子地域学生生活動連絡会」で事例紹介の

機会を頂いた。他大学のボランティアセンター職員の方々や他大学の学生から「なぜ継続できるのか」、「なぜ連携がうまくいくのか」という問い合わせを複数いただき、その答えを考えている内に気づいたことは、5年間の年月をかけて先輩方が築いてきた連携団体の皆様との信頼関係の大きさである。コロナ禍で新企画の「駅前サロン通信」、「オンラインサロン」を速やかに展開できたのも、はがきも含め双方向で交流ができているのも連携団体、高齢者、学生間の関係に安心と信頼があるからだ実感している。

今後、オンラインのニーズは高まる。会場と会場を「つなぐ」だけではなく、双方向で「交流」する工夫を重ね良い仕組みづくりを行っていきたい。

③ 感想

2年生はゼミに所属してから1年間、実際に地域に出た活動が叶わなかった。オンラインで連携団体の皆様と新規事業の準備を進める中で、非対面でのコミュニケーションの難しさを学ぶことができた。また、基本的な報告・連絡・相談を確実に行うことでよい話し合いができてよい企画が仕上がることを実感することができた。

3年生は従来のサロンは開催できない中で0からのスタートで試行錯誤しながら後輩、連携団体の皆様と作り上げていくことが苦勞することでもあり学ぶことでもあった。

通信を作成する中で皆、自分の祖父母との会話も増えた。作成する際に家族にも相談することもあり、家族や地域など身近な人々への関心を持つようになった。

謝辞

お世話になりました八王子市社会福祉協議会、八王子市地域包括支援センター旭町、八王子市民生委員・児童委員協議会第4地区民生委員・協力員、有志の皆様、大学コンソーシアム八王子、八王子市高齢者いきいき課の皆様にご心よりお礼申し上げます。